

授業探訪

言語系科目・言語 B 自由科目

「中国語中級 1・2」の教育目標と実践

外国語教育研究センター教育講師 趙 雪倩

私は、1998年4月から復旦大学国際文化交流学院で、主に留学生への中国語・中国文化教育に携わってきた。20年にわたる教員生活の中では、初級から上級までの第二言語としての中国語を教えるだけでなく、「中国総論」、「中国古代文学」、「古代中国語」など、さまざまな文化講座も担当してきた。また、研究においては、留学生向けの中国語・中国文化教材の開発をはじめ、中国古代文学の研究、古代文献の整理、英語作品の中国語翻訳などを行い、さらに、復旦大学や中国国家漢語弁公室からの派遣により、ストックホルム大学（スウェーデン）、エジンバラ大学（スコットランド）で長期にわたり教鞭をとってきた。そして、2020年10月から立教大学外国語教育研究センター教育講師として赴任することとなった。

立教大学で、唯一、日本語能力がほぼゼロの中国人教員である私はこの2年半、同僚や学生たちから多くの刺激を受けた。そこで、この機会をお借りして私自身が体験したことを皆さんに共有したいと思う。

科目の特徴と教育目標

立教大学の「中国語中級 1・2」は、1年次の必修科目「中国語基礎 1・2」を修了した学生を対象とした自由科目として開講している。外国語学習の観点から言えば、中級は次のレベルへの橋渡しとなる重要な段階である。基礎レベルでは、学生は中国語の基本的な文法や文型を学び、約500前後の単語を身に付ける。これは中国国家教育部（日本の文部科学省に相当）が実施する「漢語水平考試」（HSK）*の2～3級に相当する。したがって、「中国語中級 1・2」の教育目標は、学生がこれまで学んだ知識を深めて定着させ、さらにそれらを土台として語彙を増やし、より複雑な文型を理解・習得させるところにある。

複雑な文型の一つとして「把」構文が挙げられる。基礎レベルでは、「把」構文の基本構造を学習するが、中級レベルになると「把」構文のより複雑な表現機能と文型構造を学ぶ。例えば、「他把门打开了（彼はドアを開けた）」は、「把」構文の基本構造であり、一般的には「他打开了门（彼はドアを開けた）」の意味に近い。一方、「他把衣服放在了

* 1級から6級の6段階のレベルに分かれ、1級が最も易しく、数字が大きくなるにつれて難易度が高くなる。

洗衣机里（彼は服を洗濯機に入れた）」のような、物を移動させたことを表す「把」には、同じ、もしくは類似するものがなく、文型構造の点から見て複雑である。多義語、類義語、反義語等の語彙の使い方についても同様である。このように、「中級中国語1・2」は文法と語彙の両面において、基礎レベルで学習したことをさらにレベルアップさせたものとなる。したがって学生たちは「中級中国語1・2」終了時には、HSK3～4級レベルに到達することができる。

指導方針

授業を行うにあたって教員は、学生全員の状況を把握し、均等に機会を与えることがまず重要である。また、学生自身も授業が順調に進むことに責任を負っているという意識を持つ必要があり、これらは能動的な学習への動機付けにもなる。また、学生同士での会話練習や、教員と学生でのペアワークでの練習、リスニング練習など、学生のパフォーマンスの機会を均等にさせる必要がある。これらは、学生の集中力を持続させるためにも非常に重要である。

「中国語中級1・2」は4技能すべてを教える総合的な科目のため、教材や授業の構成も文法の説明と練習、語彙説明と練習、会話の実演と応用練習、リスニングとリーディングの練習などの多角的な内容を盛り込む必要がある。

かなと中国語由来の漢字を併用する日本語と中国語との表記体系上の関係そして表意文字である漢字の表記体系と表音文字の表記体系の違いについて考えると、前者の漢字表記体系の方がより視覚的な学習に頼ることとなる。そのため、授業では、リーディングとライティングを通してリスニングとスピーキングを向上させるとよい。具体的な授業の進め方は次に述べる通りである。

授業の進め方とセッション

授業は、予習－学習－復習といったように、順を追って段々と進めていく必要がある。外国語の語彙や文法を習得するには、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの全てに繰り返し触れ、練習し、使ってみることが重要である。そのため、予習の時は、授業で学ぶ内容、特に文型の構造や例文をあらかじめ学生に理解させておくことが望ましく、学生は授業前に教材を読んで理解しておく必要がある。そうすることで、授業で文法や単語の説明に時間を割くことなく、教員と学生が対面での学習時間をリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの実践練習に最大限活用できるようにする。

文型の練習を例にとると、まず学生に文型の構造を理解させた上で、実生活に結び付いた会話のやりとりを練習させる必要がある。例えば、動作の進行と完了に費やした時間を表現する文型は、「S+Verb+Duration time+ 的 +Object」である。授業では、

まず語句を組み立てて文を作らせたり、完成された文を用いたりすることで文型構造の順序を学生に理解させる。その上で会話による応用練習を行い、学生にその文型の意味や機能をより深く理解、習得させるとよい。例えば、ある学生に「你昨天做什么了？（昨日何をしましたか？）」と質問させる。別の学生が「我昨天学习中文了（私は昨日中国語を勉強しました）」と答える。質問した学生が「你昨天学习了多长时间的中文？（あなたは昨日どれくらい中国語を勉強しましたか？）」と続ける。「我昨天学习了一个小时的中文（私は昨日1時間中国語を勉強しました）」と答える。このような実際の生活に即した会話の練習を行うことで、学生たちはより深く、包括的に文法や文型を理解するだけでなく、何より学習への興味や自信を高めることができるようになる。

テキストの学習では、それまで練習してきた文法と語彙を密接に組み合わせる必要がある。テキストの内容は、会話でも短文でもよい。授業では、設問や復唱、さらには討論によって学生たちによりしっかりと理解させ、覚えこませることができる。一方で、教員もこれらを通じて学生たちの学習状況、つまりこれまでに学習した文法や語彙に対する理解にばらつきがないかを確認することができる。

強調しておきたいのは、授業を進める上で、パワーポイントが非常に効果的であるという点である。教員の口頭説明だけで学習内容を理解するのは難しい。そのため、説明に合わせてパワーポイントのスライドを見たり読んだりすることで、これらが車の両輪のように補い合い、練習をよりスムーズに進められる。可能であれば、画像を用いるとなおよい。例えば、「把」という語句を学ぶ際、「他把西瓜从冰箱里拿出来了（彼は冷蔵庫からスイカを取り出した）」という文が出てきたら、冷蔵庫からスイカを取り出している人の画像を添えて視覚的な刺激を与えることで、学生の理解もより深まる。

また、課題と復習は外国語学習にとって不可欠な要素である。特に自由科目である「中国語中級1・2」においては、学生の授業以外の学習時間の確保や学習のモチベーションを持続させるための工夫がより必要となる。そのため、タイムリーな復習によって学習内容を効果的に身に付けさせ、学生に自信を持たせられるよう、ボリュームやレベル面で適切な課題を出すことが重要である。復習においては学習内容の習得が重要であるため、学生には授業内で行ったさまざまな練習の回答を書き留め、復習するような課題を与えている。つまり、ライティングによって学んだ知識を再度覚えることで定着させている。

通常、2コマの授業を行った後には、1コマ分の復習を設ける必要がある。授業時に復習を行う場合も同様に、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つの側面から、語彙の穴埋めや語句の組み立てによる作文、会話の組み合わせ、読解の選択問題などの練習を行い、学習した文法と語彙をもう一度復習することで身に付けさせる。多くの学生からリスニングが難しいとの声上がるが、それは、日常生活の中で中国語に触れる機会が少ないこととキーワードをキャッチする力が十分でないことが原因である。そのため、復習ではリスニングの練習にも一定の時間を割く必要があり、「会話を聞いて、画像を選ぶ」という練習方法を用いれば、キーワードを聴覚で捉える力を

鍛えることもできる。また、リスニングの練習は、学習した内容をさらに定着させるのにも役立つものであり一挙両得の学習方法と言える。

学生と教員のコミュニケーションの重要性

外国語学習は長期間にわたるものであり、教員は学生の学習状況をリアルタイムで把握する必要があるため、教員と学生のコミュニケーションも非常に重要である。そのため、毎回、授業の初めに簡単な会話をを行うのがよい。この目的は、ウォーミングアップとして中国語でコミュニケーションをとることに慣れ親しむこと、現在の学習状況に対して何らかの課題を感じていないか、つまり授業についていくのに苦労していないか、あるいは時間の無駄だと感じていないかなどを確認すること、そして、学生との距離を縮めることである。会話の具体的な内容は、挨拶や近況の把握、とりわけここ数日何をしたかや今後の予定についての質問、天気や気候の話などである。コミュニケーションの際には、教員が手本を示すことが重要となる。例えば、教員は「我昨天看了一个电影，还去超市买了一些东西。你呢？你昨天做了什么？（私は昨日、映画を見て、スーパーへ買い物に行きました。あなたは？昨日何をしましたか？）」と聞いてみてもよい。このように尋ねることで、学生にとって手本となるだけでなく、親しみを感じ、リラックスして、より積極的に教員とのコミュニケーションを行えるようになる。また、授業を進めていく中では、各段階が終了する度に、学生に対し質問がないかどうかを繰り返し尋ね、問題点を素早く発見して解決することが非常に重要である。経験上、学生から寄せられる授業の感想は、「比較的難しい」または「大変だがそれほど難しくなく、授業にはついていける」というものがほとんどである。中国語を学んだことのある学生の中には「簡単すぎる」と言う学生も稀にいるが、授業内容をこのような学生に合わせて調整することはできない。可能であれば、これらの学生には追加で学習する上でのアドバイスや教材を提供するとよい。授業での練習や課題の進捗状況、コミュニケーションを通じて、学生が苦労していると気付いた場合は、これまでに学んだ文法や語彙を消化して理解できるようにするために、復習によるまとめを追加で行う必要がある。急いで新しい内容の学習に進んではいけない（私が立教大学で教えている間には、こうしたことは起こらなかった）。

まとめ

最後に、「中国語中級1・2」の授業は、学生の語彙をさらに増やし、文法規則に対する理解を深めるものである。教育実践においては「温故知新」という言葉の通り、予習－学習－復習という順序に従って授業を進める必要がある。また、授業内容や方法についても同様に、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つの側面から総合的に取り組む必要がある。そうすれば、学生たちが今の段階で基礎を固め

て、今後も中国語を学び続けていく自信を持つようになる上で大いに役立つことだろう。

ちょう せつせい